

綾瀬市自治基本条例策定検討委員会だより



第3号

発行日 平成18年11月28日

□ 編集・発行：綾瀬市自治基本条例策定検討委員会事務局〔綾瀬市企画部企画課自治交流担当内〕

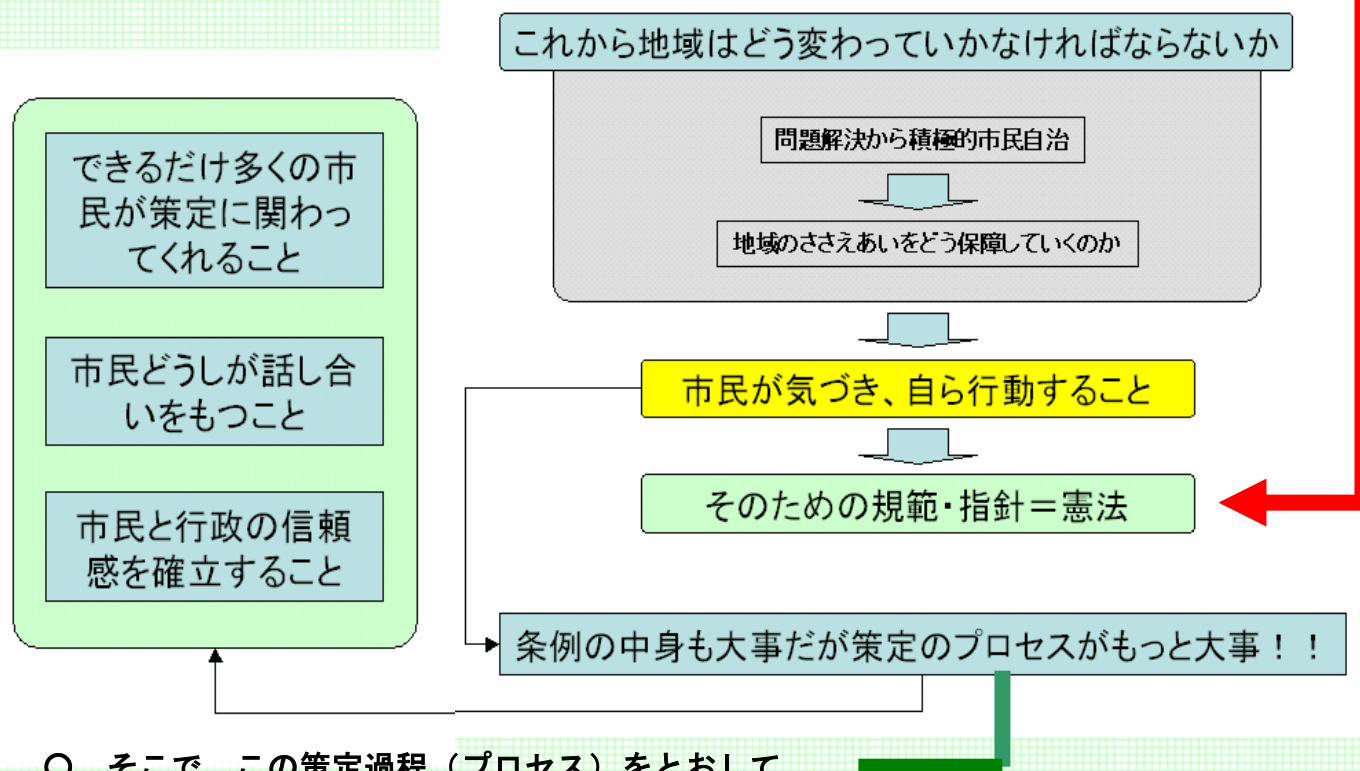
綾瀬市早川550 TEL：70-5686（直通） FAX：70-5701 E-Mail：su1111@city.ayase.kanagawa.jp

「綾瀬市自治基本条例」策定の意義とは・・・？



市民主体のまちづくり

★ 自治基本条例の役割



○ そこで、この策定過程（プロセス）をとおして

→ 市民の皆さんが**気づき**、市民の皆さん**自らが行動する**



市民自治に基づく **20年後、30年後** の **まちづくり** のために

「**市民と行政の関わり方を定める条例**」

これが「**綾瀬市自治基本条例**」となります。

第5回 策定検討委員会 沼田委員まとめ

テーマ：あなたの周りで何が起っていますか

【平成18年10月30日（月）開催】

ハートグループは、ルールとマナーとモラルの違いについて、2回目の検討をされた。ルールとマナーとモラルの違いというのは、ペナルティの有無、量、質の違いなのかと思う。違反したときにどういうペナルティがあるかということで、一番ペナルティの重いのがルールである。マナーとモラルについても、それぞれの違いがあるはずである。その違いから逆算していくと、見えてくるものがあるのかと感じる。自治基本条例は、どのくらいのところまでをカバーするものなのだろうかという議論、土台の部分の議論がある。このグループはそういう議論をしてきた。

ダイヤグループはまとめ方が非常に良い。感心した。面白いのは、男の居場所と女の居場所の話であった。女はすぐに友達になれるが、男はなかなか友達になりにくい。この委員会で検討しているということは、私も含めて非常にいい居場所ではないかと思う。

スペードグループの言われた新基準になるスタンダードの人間というのが、もし周りにたくさん居たら寒気がする。新基準というのは、ボランティアでも何でも人のために何かをするという人間が増えてきたら良いかなと思う。この会にいらっしゃる人が新基準の人間と思う。

クローバーグループでは、行政の役割、守備範囲、良い社会を作るためにこれからの行政、公務をどうやっていくかという入口の話がされた。たぶん、今までの行政や公務ではだめであろう。何でも民間で良いのかというと、そうではない。行政の役割、守備範囲についての議論は必要だと思う。

◇ 第7回 委員会を11月27日に開催しました。内容については、次号又は市ホームページでお知らせします。12月は、11日（月）に開催予定です。傍聴も可能ですので、事務局（企画課）までお知らせください。

第6回 策定検討委員会 沼田委員まとめ

テーマ：あなたの周りで起っていることについて、もっと良くするには何が必要ですか

【平成18年11月13日（月）開催】

スペードグループは情報の共有と言われたが、重要なキーワードの1つと思った。ただ、行政の情報を全部丸投げで市民に提示したら、市民は使いこなせるかどうかという別の問題がある。共有の仕方を工夫する必要があると思う。いろいろな問題について市民が参加し、提案する、行政はそれを受け止めてほしいということであるが、仕組みを考える必要がある。仕組みとして、行政、議会に提案できるものを自治基本条例に組み込めるかどうか。条例を建前倒れにしないようにと言われた。そうするための手段を条例の中にどう組み込んでいくか、これから考えていく必要がある。

ハートグループは当面の課題について、まちをきれいにするというキーワードからいろいろ考えられて非常に面白いと思った。市の特徴という問題は短期では解決できない。中期、長期の課題であり、システム全体をどうするかという長い目で見ると取り組みが必要である。

ダイヤグループは、地域活動の活性化というテーマでまとめられた。最後にヒントというふうに集約されたのが非常によかった。これは、今後条例の案文を作るときにも、みんなが共有したい態度だと思う。悩みのコミュニティという、課題を共有するからこそコミュニティができるという面白い視点があった。地域について、人を知ることが大事だということも言われた。

クローバーグループでは、緩やかなコミュニティをたくさん作って積み上げていき、それを市にしていくと言われた。市の中を連邦制の構造にしようという面白い考え方である。

練馬区にもポイ捨て禁止条例がある。実効性に乏しく、建前倒れになっている。私達がこれから作る自治基本条例を、第2のポイ捨て禁止条例にしないためには、何が必要なのだろうか。議員がつくった条例だから、ポイ捨て禁止条例は守られていない。みんなが作った条例だということにするためには、プロセスが大事である。